

ホガエリガヤ

Brylkinia caudata

イネ科

伊豆諸島

DD

環境省

【形態・生態】

多年草。細長い根茎がある。茎は直立し、高さ 20～40cm。葉は線形で軟らかく、小舌はほとんどない。花期は 5～7 月。花序は総状で長さ 8～20cm、10～15 個の小穂が下向きにつく。小穂は長さ 12～15mm、扁平で 3 小花よりなる。

【分布の概要】

伊豆諸島、北海道、本州、四国、九州；中国（東北部）、ロシア（サハリン）

【伊豆諸島における生育環境】

落葉二次林内に生育する。

【伊豆諸島における生存に対する脅威や保全上の留意点】

道路法面の改修などに際し、自生地を保全することが望ましい。

【関連文献】

佐竹義輔ら（編），1982a.



（執筆者：奥田重俊）

「現存する株数」別の情報数

～ 10	～ 50	～ 100	～ 1000	～ 10000	不明
0	0	0	0	0	0

「以前からの増減」別の情報数

～ 1/100	～ 1/10	～ 1/2	～ 1	～	絶滅および未発見
0	0	0	0	0	0

判定基準

協議による

ウラハグサ

Hakonechloa macra

イネ科

伊豆諸島

DD

環境省

【形態・生態】

多年草。根茎は這い、匍枝をつける。茎は斜上または垂れ下がり、高さ 40～70cm になる。葉は広線形で、ゆるく内曲し、無毛で表面は粉白色、裏面は緑色で光沢を帯び、基部でねじれて、表裏が反転する。花期は 8～10 月。円錐花序は卵形で開出し、長さ 5～10cm。小穂は長さ 1～2cm。芒は長さ 3～5mm。

【分布の概要】

伊豆諸島、本州（関東西部から東海、紀伊半島）

【伊豆諸島における生育環境】

崖地や川沿いの岩場に生育する。

【伊豆諸島における生存に対する脅威や保全上の留意点】

道路法面の改修などに際し、自生地を保全することが望ましい。

【関連文献】

高橋秀男，1971；佐竹義輔ら（編），1982a.



（執筆者：奥田重俊）

「現存する株数」別の情報数

～ 10	～ 50	～ 100	～ 1000	～ 10000	不明
0	0	0	0	0	0

「以前からの増減」別の情報数

～ 1/100	～ 1/10	～ 1/2	～ 1	～	絶滅および未発見
0	0	0	0	0	0

判定基準

協議による

ヒメカモノハシ

Ischaemum indicum

イネ科

伊豆諸島

DD

環境省

CR

【形態・生態】

多年草。コハナカモノハシ *I. setaceum* に似るが、茎は長く這い、総状花序は2～4個、無梗小穂は長さ4mm前後、倒卵形から長楕円形をしており、長さ10mmの折れ曲がった芒がある。海岸の岩場に生育する。

【分布の概要】

伊豆諸島、南西諸島（石垣島）；台湾、中国南部、インドシナ、インド

【伊豆諸島における生育環境】

不明である。

【伊豆諸島における生存に対する脅威や保全上の留意点】

現在の生育状況については情報が得られていない。分布や生育の状況を確認することが望まれる。

【関連文献】

島袋敬一（編著）、1997；環境庁自然保護局野生生物課（編）、2000。

「現存する株数」別の情報数

～ 10	～ 50	～ 100	～ 1000	～ 10000	不明
0	0	0	0	0	0

「以前からの増減」別の情報数

～ 1/100	～ 1/10	～ 1/2	～ 1	～	絶滅および未発見
0	0	0	0	0	0

判定基準

協議による

No image

（執筆者：奥田重俊）

ヌマガヤ

Moliniopsis japonica

イネ科

伊豆諸島

DD

環境省

【形態・生態】

多年草。根茎は節間が短く横に這う。茎は少数束生し、枝を分けず高さ30～100cmに達する。葉は長さ20～50cm、幅2～10mm、平らで下面はやや白い。花序は大きな円錐花序で10mmほどの小穂がまばらにつく。花期は8～9月。小穂は3～6小花からなり、基部に2mmほどの毛が密生する。

【分布の概要】

伊豆諸島、北海道、本州、四国、九州；朝鮮半島

【伊豆諸島における生育環境】

湿原に群生し、岩場にも生育する。

【伊豆諸島における生存に対する脅威や保全上の留意点】

自生地を特定し、周辺域も含めて保全することが望ましい。

【関連文献】

佐竹義輔ら（編）、1982a。

「現存する株数」別の情報数

～ 10	～ 50	～ 100	～ 1000	～ 10000	不明
0	0	0	0	0	0

「以前からの増減」別の情報数

～ 1/100	～ 1/10	～ 1/2	～ 1	～	絶滅および未発見
0	0	0	0	0	0

判定基準

協議による



（執筆者：奥田重俊・畔上能力）

トクガワザサ

Sasa tokugawana

イネ科

伊豆諸島

NT

環境省

【形態・生態】

多年草。稈の高さは約 1.5m。稈鞘には開出する長毛が密生する。葉は上面無毛、下面は軟らかい毛が密生する。

【分布の概要】

伊豆諸島、本州（栃木以南）、四国、九州

【伊豆諸島における生育環境】

不明である。

【伊豆諸島における生存に対する脅威や保全上の留意点】

生育状況の確認が必要である。

【関連文献】

鈴木貞雄, 1996; 神奈川県植物誌調査会（編）, 2001.

「現存する株数」別の情報数

～ 10	～ 50	～ 100	～ 1000	～ 10000	不明
0	0	0	0	0	0

「以前からの増減」別の情報数

～ 1/100	～ 1/10	～ 1/2	～ 1	～	絶滅および未発見
0	0	0	0	0	0

判定基準

協議による

No image

（執筆者：上條隆志）

ミミガタテンナンショウ

Arisaema undulatifolium var. *limbatum*

サトイモ科

伊豆諸島

DD

環境省

【形態・生態】

多年草。葉は 2 個つき、基本種に比べて小葉が卵形または楕円形で幅が広く、仏炎苞はより大型で、筒部は 4.5 ～ 8cm。舷部は普通は濃紫色あるいは暗紫色で、口辺部は耳状に著しく開出し、付属体は棒状から棍棒状で、先端は円く、径 3 ～ 10mm。

【分布の概要】

伊豆諸島、本州（岩手と宮城の太平洋沿岸と関東と山梨の低山地）、四国

【伊豆諸島における生育環境】

二次林内に生育する。

【伊豆諸島における生存に対する脅威や保全上の留意点】

自生地を特定し、周辺を含めた樹林環境を現状のまま保全することが望ましい。

【関連文献】

佐竹義輔ら（編）, 1982a.

「現存する株数」別の情報数

～ 10	～ 50	～ 100	～ 1000	～ 10000	不明
0	0	0	0	0	0

「以前からの増減」別の情報数

～ 1/100	～ 1/10	～ 1/2	～ 1	～	絶滅および未発見
0	0	0	0	0	0

判定基準

協議による



（執筆者：奥田重俊）

ムロウテンナンショウ

Arisaema yamatense

サトイモ科

伊豆諸島

DD

環境省

【形態・生態】

多年草。葉は2個で、多くは第2葉は第1葉より著しく小型で、第1葉にほとんど接するように出る。小葉は7～17枚で、鳥足状につき、狭い楕円形。花期は4～6月。花序はしばしば葉より早く開く。仏炎苞は淡緑色、稀に紫色を帯びる。口辺部は狭く開出し、舷部は広卵形で、内面に突起を密生し、基部は細くならず、長さ4～7cm。付属体は上部で少し前に曲がり、先端はやや膨らむ。

【分布の概要】

伊豆諸島、本州（愛知、福井、近畿）

【伊豆諸島における生育環境】

二次林内に生育する。

【伊豆諸島における生存に対する脅威や保全上の留意点】

自生地を特定し、周辺を含めた樹林環境を現状のまま保全することが望ましい。

【関連文献】

佐竹義輔ら（編），1982a.

「現存する株数」別の情報数

～ 10	～ 50	～ 100	～ 1000	～ 10000	不明
0	0	0	0	0	0

「以前からの増減」別の情報数

～ 1/100	～ 1/10	～ 1/2	～ 1	～	絶滅および未発見
0	0	0	0	0	0

判定基準

協議による



（執筆者：奥田重俊）

ショウジョウスゲ

Carex blepharicarpa

カヤツリグサ科

伊豆諸島

VU

環境省

【形態・生態】

多年草。密に叢生し、大株になる。基部の鞘は光沢があり、褐色または暗褐色。葉は硬質で幅2～6mm、花後に著しく伸長する。有花茎は高さ15～50cmでややざらつく。頂小穂は雄性で棍棒状、側小穂は雌性で直立する。花期は5～8月。苞は有鞘で葉身は小穂よりも短い。雌鱗片は濃褐色で縁に透明部分があり、先は浅い凹形で突端または短芒端。果胞に密毛があり、嘴の口部は凹形。柱頭は3岐。

【分布の概要】

伊豆諸島、北海道、本州、四国、九州

【伊豆諸島における生育環境】

広い範囲に分布し、草原や湿った斜面などの生育する。

【伊豆諸島における生存に対する脅威や保全上の留意点】

自生地の周辺も含め、広い範囲を保全することに加え、競合する植物を刈取るなどの管理を行うことが望ましい。

【関連文献】

佐竹義輔ら（編），1982a; 七島花の会 神津島，2011a.

「現存する株数」別の情報数

～ 10	～ 50	～ 100	～ 1000	～ 10000	不明
0	0	0	0	0	0

「以前からの増減」別の情報数

～ 1/100	～ 1/10	～ 1/2	～ 1	～	絶滅および未発見
0	0	0	0	0	0

判定基準

協議による



©七島花の会

（執筆者：奥田重俊）

シマタヌキラン

Carex doenitzii var. *okuboi*

カヤツリグサ科

伊豆諸島

NT

環境省

NT

【形態・生態】

多年草。叢生する。高さは30～60cm、上部はややざらつき、下部は平滑。葉は無毛、縁はややざらつく。小穂は4～7個が密接してつき、上の1～2個は雄性で太い線形。他は雌性で長楕円形、長さ1.5～3cm、雌鱗片は披針形で濃赤血色、上端はとがって芒となる。果胞は狭卵形、やや扁平で全面に小さな刺を散生し、葯は細く長くて、上端が深く2裂する。柱頭は果時にも残る。6～7月に熟す。コタヌキランが島しょで分化した型と考えられている。

【分布の概要】

伊豆諸島

【伊豆諸島における生育環境】

火山の外輪山などの岩場や礫地に生える。

【伊豆諸島における生存に対する脅威や保全上の留意点】

踏みつけなどにより影響を受ける可能性があるため、自生地への立ち入りに対し制限を加えることが望ましい。また、必要に応じて、競合する植物を刈取るなどの管理を検討する必要がある。

【関連文献】

大場達之, 1975; 高橋秀男, 1971.

「現存する株数」別の情報数

～ 10	～ 50	～ 100	～ 1000	～ 10000	不明
3	3	2	3	1	0

「以前からの増減」別の情報数

～ 1/100	～ 1/10	～ 1/2	～ 1	～	絶滅および未発見
1	0	0	4	1	0

判定基準

協議による



(執筆: 奥田重俊)

ホソバヒカゲスゲ

Carex humilis var. *nana*

カヤツリグサ科

伊豆諸島

VU

環境省

【形態・生態】

多年草。匍枝は無く叢生する。葉は細く、幅0.5～1.5mm。稈は低く、高さ3～6cm、葉の間にかくれ根際に埋もれる。小穂の稈も平滑で、ヒカゲスゲのようにざらつくことはない。果実は4～5月に熟す。

【分布の概要】

伊豆諸島、北海道、本州、四国、九州；朝鮮半島、中国（東北部）、ロシア（シベリア東部）

【伊豆諸島における生育環境】

明るい二次林や林縁の草地、所によっては岩にも生育する。

【伊豆諸島における生存に対する脅威や保全上の留意点】

自生地の周辺も含め、広い範囲を保全することに加え、競合する植物を刈取るなどの管理を行うことが望ましい。

【関連文献】

佐竹義輔ら（編）, 1982a; 星野卓二ら, 2011.

「現存する株数」別の情報数

～ 10	～ 50	～ 100	～ 1000	～ 10000	不明
0	0	0	0	0	0

「以前からの増減」別の情報数

～ 1/100	～ 1/10	～ 1/2	～ 1	～	絶滅および未発見
0	0	0	0	0	0

判定基準

協議による



(執筆: 奥田重俊)

テキリスゲ

Carex kiotensis

カヤツリグサ科

伊豆諸島

VU

環境省

【形態・生態】

多年草。根茎は短く、匍枝はなく叢生する。稈は高さ 30～70cm、著しくざらつく。基部の葉鞘は葉身がなく、濃褐色で、糸網がある。小穂は 5～7 個ついて、長さ 3～10cm、淡緑色、頂小穂は雄性で線形、他は雌性で長い円柱形となり密に多数の花をつけて點頭し、柄はざらつく。果胞は楕円形で平滑、先端が短い嘴に終わる。5～6 月に熟す。

【分布の概要】

伊豆諸島、北海道、本州、四国、九州

【伊豆諸島における生育環境】

二次林内や林縁の草地、河川沿いの崩壊地に生育する。

【伊豆諸島における生存に対する脅威や保全上の留意点】

自生地の周辺も含め、広い範囲を保全することに加え、競合する植物を刈取るなどの管理を行うことが望ましい。

【関連文献】

佐竹義輔ら (編), 1982a; 星野卓二ら, 2011.

「現存する株数」別の情報数

～ 10	～ 50	～ 100	～ 1000	～ 10000	不明
0	0	0	0	0	0

「以前からの増減」別の情報数

～ 1/100	～ 1/10	～ 1/2	～ 1	～	絶滅および未発見
0	0	0	0	0	0

判定基準

協議による



© 寺尾博

(執筆: 奥田重俊)

センダイスゲ

Carex lenta var. *sendaica*

カヤツリグサ科

伊豆諸島

VU

環境省

【形態・生態】

多年草。根茎は短く這う。ゆるく叢生し、茎は細くて高さ 10～30cm、基部の鞘は暗褐色。小穂は 3～4 個苞の鞘内から 1～3 個ずつ出る。いずれも雌性で、上方には短く雄花がつき、短円柱形。雌鱗片は卵形、鋭頭で、赤褐色。果胞は広楕円形でレンズ形、脈に短毛があり、上端は急に直立する短い嘴となる。柱頭は 2 岐。9～11 月に熟す。

【分布の概要】

伊豆諸島、本州、四国、九州; 朝鮮半島、中国

【伊豆諸島における生育環境】

海岸付近の草地や明るい樹林に生育する。

【伊豆諸島における生存に対する脅威や保全上の留意点】

自生地の周辺も含め、広い範囲を保全することに加え、競合する植物を刈取るなどの管理を行うことが望ましい。

【関連文献】

佐竹義輔ら (編), 1982a; 星野卓二ら, 2011.

「現存する株数」別の情報数

～ 10	～ 50	～ 100	～ 1000	～ 10000	不明
0	0	0	0	0	0

「以前からの増減」別の情報数

～ 1/100	～ 1/10	～ 1/2	～ 1	～	絶滅および未発見
0	0	0	0	0	0

判定基準

協議による



(執筆: 奥田重俊)

カタスゲ

Carex macrandrolepis

カヤツリグサ科

伊豆諸島

VU

環境省

【形態・生態】

多年草。根茎は長く這い、暗褐色の繊維が著しくつく。茎は細く、高さ 15～40cm。葉はやや軟らかく扁平、鮮緑色で、幅 2～3mm。花期は 3～5 月。小穂は 3～4 個がまばらにつき、頂小穂は雄性、線形で、長さ 1～3cm、他は雌性で、長さ 1cm 位、長楕円形で、数個の花をつける。果胞は淡緑色、光沢があって、鋭い三稜があり、菱形。表面に微毛があり、脈はない。嘴は長い。柱頭は 3 岐。

【分布の概要】

伊豆諸島、本州（東海以西）、九州；朝鮮半島（南部）、台湾

【伊豆諸島における生育環境】

海岸付近の草地や明るい樹林内に生育する。

【伊豆諸島における生存に対する脅威や保全上の留意点】

自生地の周辺も含め、広い範囲を保全することに加え、競合する植物を刈取るなどの管理を行うことが望ましい。

【関連文献】

佐竹義輔ら（編）、1982a；星野卓二ら、2011。

「現存する株数」別の情報数

～ 10	～ 50	～ 100	～ 1000	～ 10000	不明
0	0	0	0	0	0

「以前からの増減」別の情報数

～ 1/100	～ 1/10	～ 1/2	～ 1	～	絶滅および未発見
0	0	0	0	0	0

判定基準

協議による



（執筆：奥田重俊）

タチスゲ

Carex maculata

カヤツリグサ科

伊豆諸島

VU

環境省

【形態・生態】

多年草。叢生する。茎は高さ 30～70cm。葉は下面が粉白で幅 3～5mm、裏面に密に乳頭状突起がある。基部鞘は淡褐色。苞は葉状で鞘がある。花期は 5～6 月。小穂は 1～2 個接して付く。頂小穂は雄性、線形。側小穂は雌性で、円柱状、長さ 1～4cm。果胞は倒卵形で乳頭状の突起を密布する。柱頭は 3 岐。乾燥すると赤褐色または濃褐色に変色する。

【分布の概要】

伊豆諸島、本州（宮城以南）、四国、九州；朝鮮半島（南部）、中国

【伊豆諸島における生育環境】

湿った草地に生育する。

【伊豆諸島における生存に対する脅威や保全上の留意点】

自生地の周辺も含め、広い範囲を保全することに加え、競合する植物を刈取るなどの管理を行うことが望ましい。

【関連文献】

佐竹義輔ら（編）、1982a；星野卓二ら、2011。

「現存する株数」別の情報数

～ 10	～ 50	～ 100	～ 1000	～ 10000	不明
0	0	0	0	0	0

「以前からの増減」別の情報数

～ 1/100	～ 1/10	～ 1/2	～ 1	～	絶滅および未発見
0	0	0	0	0	0

判定基準

協議による



© 七島花の会

（執筆：奥田重俊・畔上能力）

キノクニスゲ

Carex matsumurae

カヤツリグサ科

伊豆諸島

CR

環境省

NT

【形態・生態】

多年草。密に叢生し、匍枝がなく、大きな株となる。茎は多数で高さ 30～50cm、葉は厚く光沢があり、幅 8～12mm、深緑色で厚い。基部の鞘は淡色で、褐色の条線がある。花期は 4～5 月。小穂は 4～5 個まばらにつく。頂小穂は雄性で、長さ 3～5cm、側小穂は雌性、円柱形でやや密に花をつける。雌鱗片は卵形で、淡緑色。果胞はレンズ形で倒卵形、無毛で肋が多く、上端は急に短い嘴になる。柱頭は 2 岐。

【分布の概要】

伊豆諸島、本州（富山、三重以西）、四国、九州；朝鮮半島

【伊豆諸島における生育環境】

海外付近の常緑樹林内に生育する。

【伊豆諸島における生存に対する脅威や保全上の留意点】

自生地を特定し、競合する植物を刈取るなどの管理を行うことが望ましい。

【関連文献】

佐竹義輔ら（編），1982a；星野卓二ら，2011。

「現存する株数」別の情報数

～ 10	～ 50	～ 100	～ 1000	～ 10000	不明
0	1	0	0	0	0

「以前からの増減」別の情報数

～ 1/100	～ 1/10	～ 1/2	～ 1	～	絶滅および未発見
0	0	0	0	0	0

判定基準

D



(執筆者：奥田重俊)

カンスゲ

Carex morrowii

カヤツリグサ科

伊豆諸島

CR

環境省

【形態・生態】

多年草。根茎は短い。茎は高さ 20～40cm、葉は常緑で多数根生し、濃緑色、極めて硬くて上面には多数の細脈があり、光沢があってざらつく。基部の鞘は黒紫色。花期は 4～5 月。頂小穂は雄性、線形。側小穂は 3～5 個、雌性で短い円柱形、密に果胞をつける。雌鱗片は卵形で褐色を帯びる。果胞は開出し、広卵形で毛がなく、上方は嘴となる。柱頭は 3 岐。

【分布の概要】

伊豆諸島、本州（福島以西の主として太平洋側）、四国、九州

【伊豆諸島における生育環境】

斜面林に群生する。

【伊豆諸島における生存に対する脅威や保全上の留意点】

自生地を特定し、競合する植物を刈取るなどの管理を行うことが望ましい。

【関連文献】

佐竹義輔ら（編），1982a；星野卓二ら，2011。

「現存する株数」別の情報数

～ 10	～ 50	～ 100	～ 1000	～ 10000	不明
0	1	0	0	0	0

「以前からの増減」別の情報数

～ 1/100	～ 1/10	～ 1/2	～ 1	～	絶滅および未発見
0	0	0	0	0	0

判定基準

D



(執筆者：奥田重俊)

ミヤマカンスゲ

Carex multifolia

カヤツリグサ科

伊豆諸島

CR

環境省

【形態・生態】

多年草。根茎はやや伸長するが、匍枝は出さない。茎は多数出て高さ 20～50cm。基部の鞘はやや長く伸び、光沢のある紫褐色を帯びる。葉は多数つき、幅 3～8mm ほどでやや軟らかい。花期は 4～5 月。小穂は 3～5 個が離れてつく。頂小穂は線形で雄性、長さ 2～4cm。側生のは雌性で長さ 1.5～3cm、苞は長い鞘となる。雌鱗片は倒卵形、まばらに果胞をつける。果胞は長さ 3～4mm、長楕円形で短い軟毛と脈がある。柱頭は 3 岐。

【分布の概要】

伊豆諸島、北海道、本州、四国、九州

【伊豆諸島における生育環境】

斜面林に群生する。

【伊豆諸島における生存に対する脅威や保全上の留意点】

自生地を特定し、競合する植物を刈取るなどの管理を行うことが望ましい。

【関連文献】

佐竹義輔ら (編), 1982a; 星野卓二ら, 2011。

「現存する株数」別の情報数

～ 10	～ 50	～ 100	～ 1000	～ 10000	不明
0	1	0	0	0	0

「以前からの増減」別の情報数

～ 1/100	～ 1/10	～ 1/2	～ 1	～	絶滅および未発見
0	0	0	0	0	0

判定基準

D



(執筆: 奥田重俊)

ミコシガヤ

Carex neurocarpa

カヤツリグサ科

伊豆諸島

VU

環境省

【形態・生態】

多年草。茎は高さ 30～60cm、鈍稜があって、平滑。葉は幅 2～3mm。花期は 5～6 月。小穂は多数集まって長さ 3～6cm の密な花序をつくり、上方に雄花、下方に雌花をつけ、卵円形で長さ 4～8mm。鱗片には赤褐色の条線がある。花序の下方に 2～3 個の長い苞が目立つ。果胞は卵形で広い翼がつく。柱頭は 2 岐。

【分布の概要】

伊豆諸島、本州 (近畿以北); 東アジア (北部)

【伊豆諸島における生育環境】

河川沿いの草地に生育する。

【伊豆諸島における生存に対する脅威や保全上の留意点】

自生地を特定し、競合する植物を刈取るなどの管理を行うことが望ましい。

【関連文献】

佐竹義輔ら (編), 1982a; 星野卓二ら, 2011。

「現存する株数」別の情報数

～ 10	～ 50	～ 100	～ 1000	～ 10000	不明
0	0	0	0	0	0

「以前からの増減」別の情報数

～ 1/100	～ 1/10	～ 1/2	～ 1	～	絶滅および未発見
0	0	0	0	0	0

判定基準

協議による



© 寺尾博

(執筆: 奥田重俊)

コジュズスゲ

Carex parciflora var. *macroglossa*

カヤツリグサ科

伊豆諸島



環境省

【形態・生態】

多年草。全体に軟らかい。根茎は短く、ゆるい株をつくる。茎は高さ 15～30cm、平滑。葉は幅 3～7mm で粉緑色。花期は 5～6 月。頂小穂は雄性で線形、淡緑色、長さ 1～1.5cm、側小穂は 3～4 個ついて、雌性で長楕円形、長さ 1～2cm。雌鱗片は卵形、淡緑色で先はとがる。果胞は斜開し、長卵形で長さ 4～5mm、膜質で細脈があり、上方は長い嘴となる。柱頭は 3 岐。

【分布の概要】

伊豆諸島、北海道、本州、九州；朝鮮半島

【伊豆諸島における生育環境】

湿った草地や水田の畔などに生育する。

【伊豆諸島における生存に対する脅威や保全上の留意点】

自生地を特定し、競合する植物を刈取るなどの管理を行うことが望ましい。

【関連文献】

佐竹義輔ら（編），1982a；星野卓二ら，2011。

「現存する株数」別の情報数

～ 10	～ 50	～ 100	～ 1000	～ 10000	不明
0	0	0	0	0	0

「以前からの増減」別の情報数

～ 1/100	～ 1/10	～ 1/2	～ 1	～	絶滅および未発見
0	0	0	0	0	0

判定基準

協議による



(執筆：奥田重俊)

マメスゲ

Carex pudica

カヤツリグサ科

伊豆諸島



環境省

【形態・生態】

多年草。叢生し、匍枝はない。茎は葉に隠れて短く、高さ 2～7cm。葉はやや短く、濃緑色、やや軟らかく扁平で幅 2～3mm。花期は 4～6 月。雄小穂は長い柄の先端に付き、長さ 5mm 位、鱗片は白色、緑色の脈があり、一部赤褐色を帯びる。雌小穂は側生し、1～4 個、長楕円形で長さ 5～10mm。果胞は卵状紡錘形、短い微毛があり、脈が多く淡緑色で嘴は短い。柱頭は 3 岐。

【分布の概要】

伊豆諸島、本州（関東から近畿）

【伊豆諸島における生育環境】

湿原周辺の草地に生育する。

【伊豆諸島における生存に対する脅威や保全上の留意点】

自生地を特定し、競合する植物を刈取るなどの管理を行うことが望ましい。

【関連文献】

佐竹義輔ら（編），1982a；星野卓二ら，2011。

「現存する株数」別の情報数

～ 10	～ 50	～ 100	～ 1000	～ 10000	不明
0	0	0	0	0	0

「以前からの増減」別の情報数

～ 1/100	～ 1/10	～ 1/2	～ 1	～	絶滅および未発見
0	0	0	0	0	0

判定基準

協議による



(執筆：奥田重俊)

オオクグ

Carex rugulosa

カヤツリグサ科

伊豆諸島

DD

環境省

NT

【形態・生態】

多年草。群生する。茎は高さ 40～70cm あり、太く、基部の葉鞘は濃赤褐色の部分があり、やや糸網がつく。葉は扁平でやや硬く、幅 5～8mm。花期は 5～6 月。上方の小穂 3～5 個は雄性で、濃褐色を帯びる。下方の 2～3 個は雌雄で円柱形、長さ 3～5cm、最下の苞は時に鞘ができる。果胞は長楕円形で、長さ 6～7mm、嚢は太く短い。柱頭は 3 岐で短い。

【分布の概要】

伊豆諸島、北海道、本州、九州；朝鮮半島、中国（東北部）、ロシア（ウスリー）

【伊豆諸島における生育環境】

河口や入り江など海水の流入する湿地に生育する。

【伊豆諸島における生存に対する脅威や保全上の留意点】

海岸の造成や改修などにより自生地が消失するおそれがあるため、自生地を特定し、競合する植物を刈取るなどの管理を行うことが望ましい。

【関連文献】

佐竹義輔ら（編）、1982a；星野卓二ら、2011。

「現存する株数」別の情報数

～ 10	～ 50	～ 100	～ 1000	～ 10000	不明
0	0	0	0	0	0

「以前からの増減」別の情報数

～ 1/100	～ 1/10	～ 1/2	～ 1	～	絶滅および未発見
0	0	0	0	0	0

判定基準

協議による



（執筆：奥田重俊）

ジングウスゲ ※備考 (p. 213)

Carex sacrosancta

カヤツリグサ科

伊豆諸島

CR

環境省

NT

【形態・生態】

多年草。ややナキリスゲに似ているが、やや繊細。稈は高さ 20～40cm。小穂は 4～6 個、線状円柱形で長さ 1～2.5cm、まばらに雌花をつけ、上方に短く雄花がつく。花期は 9～10 月。果胞は長さ 4mm 位、楕円形で、脈上にまばらに小刺毛があり、嚢は急に細まる。柱頭は 2 岐で、果胞より短い。

【分布の概要】

伊豆諸島、本州（紀伊半島、中国）、四国、九州；台湾

【伊豆諸島における生育環境】

二次林内や林縁に生育する。

【伊豆諸島における生存に対する脅威や保全上の留意点】

道路の造成により自生地が消失する可能性がある。自生地を特定し、競合する植物を刈取るなどの管理を行うことが望ましい。

【関連文献】

佐竹義輔ら（編）、1982a；星野卓二ら、2011。

「現存する株数」別の情報数

～ 10	～ 50	～ 100	～ 1000	～ 10000	不明
0	0	0	0	0	0

「以前からの増減」別の情報数

～ 1/100	～ 1/10	～ 1/2	～ 1	～	絶滅および未発見
0	0	0	0	0	0

判定基準

協議による



（執筆：奥田重俊）

アブラシバ

Carex satsumensis

カヤツリグサ科

伊豆諸島

VU

環境省

【形態・生態】

多年草。細長い匍枝がある。茎は高さ 10～30cm、葉は幅 2～5mm。花序は卵状円錐形で黄褐色、長さ 5～12mm の多数の小穂が水平に開出してつく。花期は 5～6 月。小穂は上半に雄花、下半に雌花をつけ、淡黄褐色で光沢がある。雌鱗片は披針状卵形。果胞は開出し、狭卵形で脈も毛もなく、上方は長い嘴となる。柱頭は 3 岐。

【分布の概要】

伊豆諸島、本州（福島以南）、四国、九州；台湾、フィリピン、インド

【伊豆諸島における生育環境】

崩壊しやすい斜面や河原に生育する。

【伊豆諸島における生存に対する脅威や保全上の留意点】

河川改修により自生地が消失する可能性があるため、自生地を特定し、競合する植物を刈取るなどの管理を行うことが望ましい。

【関連文献】

佐竹義輔ら（編），1982a；星野卓二ら，2011。

「現存する株数」別の情報数

～ 10	～ 50	～ 100	～ 1000	～ 10000	不明
0	0	0	0	0	0

「以前からの増減」別の情報数

～ 1/100	～ 1/10	～ 1/2	～ 1	～	絶滅および未発見
0	0	0	0	0	0

判定基準

協議による



（執筆者：奥田重俊）

イヌノハナヒゲ

Rhynchospora chinensis

カヤツリグサ科

伊豆諸島

DD

環境省

【形態・生態】

多年草。叢生し、匍枝はない。茎は高さ 30～60cm、やや細い。葉は細く幅 2～3.5mm。花期は 7～9 月。散房花序は 3～6 個で直立し、小穂は成熟時には広披針形、長さ 7～8mm であり、通常 2 花。濃褐色で光沢がない。そう果は広倒卵形、長さ 2～2.2mm、不明の横じわがある。柱基は果よりも少し短くて扁平、狭三角形、刺針は 6 個あって細く、上向きにざらつく。柱頭は 2 岐。

【分布の概要】

伊豆諸島、本州（中部以西）、四国、九州、南西諸島；朝鮮半島、台湾、中国、インド、インドネシア

【伊豆諸島における生育環境】

貧栄養な湿地に生育する。

【伊豆諸島における生存に対する脅威や保全上の留意点】

外来植物の草刈りなどの管理を行うことや、自生地に富栄養な水が流入することを避けることで、湿地環境を保全することが望ましい。

【関連文献】

佐竹義輔ら（編），1982a；星野卓二ら，2011。

「現存する株数」別の情報数

～ 10	～ 50	～ 100	～ 1000	～ 10000	不明
0	0	0	0	0	0

「以前からの増減」別の情報数

～ 1/100	～ 1/10	～ 1/2	～ 1	～	絶滅および未発見
0	0	0	0	0	0

判定基準

協議による



（執筆者：奥田重俊）

イトイヌノハナヒゲ

Rhynchospora faberi

カヤツリグサ科

伊豆諸島

DD

環境省

【形態・生態】

多年草。匍枝はない。茎は高さ 10～40cm。葉は幅 0.5～1mm でやや糸状である。花期は 7～9 月。散房花序は 3～4 個で小さく、まばらに 2～5 個の小穂がつく。小穂は長さ 4～5mm、狭卵形、果は広倒卵形で長さ 1.5～2mm、刺針は 6 個あってやや太く、下向きにざらつく。柱頭は 2 岐。

【分布の概要】

伊豆諸島、北海道、本州、四国、九州；朝鮮半島、中国、ロシア（ウスリー）

【伊豆諸島における生育環境】

貧栄養な湿地に生育する。

【伊豆諸島における生存に対する脅威や保全上の留意点】

外来植物の草刈りなどの管理を行うことや、自生地に富栄養な水が流入することを避けることで、湿地環境を保全することが望ましい。

【関連文献】

佐竹義輔ら（編），1982a；星野卓二ら，2011。

「現存する株数」別の情報数

～ 10	～ 50	～ 100	～ 1000	～ 10000	不明
0	0	0	0	0	0

「以前からの増減」別の情報数

～ 1/100	～ 1/10	～ 1/2	～ 1	～	絶滅および未発見
0	0	0	0	0	0

判定基準

協議による



(執筆：奥田重俊)

ヒメホタルイ ※備考 (p. 213)

Schoenoplectus lineolatus

カヤツリグサ科

伊豆諸島

CR

環境省

【形態・生態】

多年草。根茎は這い、茎は通常 1 本ずつ節から単生する。花茎は高さ 10～20cm。断面は円形で軟質。苞は花茎に続き、長さ 1～5cm。花期は 8～10 月。小穂は 1 個、仮側生し、無柄、長さ 7～10mm。刺針状の花被片は 5 個、そう果の約 2 倍長で下向きの刺がある。柱頭は 2 岐。秋に根茎の先端に越冬芽をつくる。

【分布の概要】

伊豆諸島、北海道、本州、四国、九州；台湾

【伊豆諸島における生育環境】

水深が浅い池の岸などの砂泥地に生育する。

【伊豆諸島における生存に対する脅威や保全上の留意点】

外来植物の草刈りなどの管理を行うことや、自生地に富栄養な水が流入することを避けることで、湿地環境を保全することが望ましい。

【関連文献】

佐竹義輔ら（編），1982a；星野卓二ら，2011。

「現存する株数」別の情報数

～ 10	～ 50	～ 100	～ 1000	～ 10000	不明
0	0	0	0	0	0

「以前からの増減」別の情報数

～ 1/100	～ 1/10	～ 1/2	～ 1	～	絶滅および未発見
0	0	0	0	0	0

判定基準

協議による



(執筆：奥田重俊・畔上能力)

イワチドリ

Amitostigma keiskei

ラン科

伊豆諸島

CR

環境省

EN

【形態・生態】

多年草。やや太めで楕円状の塊根から伸び上がる茎の下部に大きな葉が1枚、上方に被針形の苞がつく。花期は5月。花数は1～3個。赤紫色の背萼片と側花弁は広卵形で小さく、重なりあって兜状となり、ずい柱を覆う。側萼片はやや開き、側花弁よりやや長い。唇弁は3裂し、中裂片はさらに2裂する。裂片の裂け目付近から基部に向かって赤紫の斑点または赤紫と青紫の混在した斑点が2列に並び、側花弁の縁に連続する。唇弁基部はずい柱と合着し、ずい柱先端の葯帽はほぼ円形。果実は楕円形で赤く色づく。

【分布の概要】

伊豆諸島、本州（中部以西）、四国

【伊豆諸島における生育環境】

風衝地の日当たりの良い岩場の陰で、夏は雲霧に覆われる立地に生育する。

【伊豆諸島における生存に対する脅威や保全上の留意点】

個体数が少ない上、園芸目的の採取の対象となるため、自生地そのものの保全など厳重に保護することが望ましい。

【関連文献】

七島花の会 神津島, 2010e.

「現存する株数」別の情報数

～ 10	～ 50	～ 100	～ 1000	～ 10000	不明
0	2	0	0	0	0

「以前からの増減」別の情報数

～ 1/100	～ 1/10	～ 1/2	～ 1	～	絶滅および未発見
0	0	0	2	0	0

判定基準

ACD



© 七島花の会

(執筆: 石橋正行)

シラン

Bletilla striata

ラン科

伊豆諸島

DD

環境省

NT

【形態・生態】

多年草。偽球茎は多肉、扁平な球形で横に並ぶ。茎は高さ30～70cm。葉は数枚、硬い革質で毛がなく、披針形をなして、鋭くとがる。花期は4～5月。紅紫色の花を3～7個つける。苞は長楕円状披針形、早落性で開花時にはない。萼片および側花弁は狭長楕円形。唇弁は花被片と同長で、くさび状倒卵形、3裂し、中裂片は円形で縁は波状。

【分布の概要】

伊豆諸島、本州（中南部）、四国、九州、南西諸島；台湾、中国

【伊豆諸島における生育環境】

日当たりが良く湿り気のある斜面に生育する。

【伊豆諸島における生存に対する脅威や保全上の留意点】

園芸目的の採取のおそれがあるため、自生地の情報を秘匿することに加え、自生地の環境を現状のまま保全し、競合する植物を刈取りなどにより管理することが望ましい。

【関連文献】

前川文夫, 1971; 佐竹義輔ら(編), 1982a.

「現存する株数」別の情報数

～ 10	～ 50	～ 100	～ 1000	～ 10000	不明
0	0	0	0	0	0

「以前からの増減」別の情報数

～ 1/100	～ 1/10	～ 1/2	～ 1	～	絶滅および未発見
0	0	0	0	0	0

判定基準

協議による



(執筆: 奥田重俊)

マメヅタラン

Bulbophyllum drymoglossum

ラン科

伊豆諸島

EN

環境省

NT

【形態・生態】

多年草。根茎は細く這い、豆類の芽に似た革質、卵円形、長さ7～13mmの葉をまばらにつける。花期は5～6月。花茎は葉の基部から出て細く、長さ7～10mm、淡黄色の1花をつける。山地の樹幹、岩上に着生する。

【分布の概要】

伊豆諸島、本州（関東以西）、四国、九州、南西諸島

【伊豆諸島における生育環境】

高標高地の常緑広葉樹林に生育する。

【伊豆諸島における生存に対する脅威や保全上の留意点】

樹林の伐採（単木的なものを含む）や、園芸目的の採取が脅威となる。自生地を現状のまま保全することが望ましい。自生地によっては、競合種の除去の検討も必要となる。

【関連文献】

佐竹義輔ら（編），1982a；教育委員会『フィールド図鑑—御蔵島の植物・動物』制作部会，2007。

「現存する株数」別の情報数

～ 10	～ 50	～ 100	～ 1000	～ 10000	不明
11	3	1	0	0	1

「以前からの増減」別の情報数

～ 1/100	～ 1/10	～ 1/2	～ 1	～	絶滅および未発見
0	0	1	1	0	0

判定基準

ACD



© 七島花の会

(執筆: 上條隆志・畔上能力)

ムギラン

Bulbophyllum inconspicuum

ラン科

伊豆諸島

VU

環境省

NT

【形態・生態】

多年草。根茎は這い、まばらに卵形の偽球茎をつけ、先端に1葉をつける。葉は楕円状で鈍頭、肉質、長さ1～3cm、幅6～8mm。花期は6～7月。偽球茎の基部から花茎を出し、黄白色の1花をつける。側花弁は萼弁とほぼ同長で縁に毛がある。常緑樹林内の樹上や岩上に着生する。

【分布の概要】

伊豆諸島、本州（関東以西）、四国、九州

【伊豆諸島における生育環境】

高標高地の常緑広葉樹林に生育する。

【伊豆諸島における生存に対する脅威や保全上の留意点】

樹林の伐採（単木的なものを含む）や、園芸目的の採取が脅威となる。自生地を現状のまま保全することが望ましい。自生地によっては、競合種の除去の検討も必要となる。

【関連文献】

佐竹義輔ら（編），1982a。

「現存する株数」別の情報数

～ 10	～ 50	～ 100	～ 1000	～ 10000	不明
1	3	0	3	1	0

「以前からの増減」別の情報数

～ 1/100	～ 1/10	～ 1/2	～ 1	～	絶滅および未発見
0	0	0	7	0	0

判定基準

ACD



© 七島花の会

(執筆: 上條隆志・畔上能力)

ミヤマムギラン

Bulbophyllum japonicum

ラン科

伊豆諸島

DD

環境省

NT

【形態・生態】

多年草。横に這う根茎上に、卵球形の偽球茎をまばらにつけ、その上に1葉を頂生する。葉はやや厚く革質で、長さ4～8mm、鋭頭。花期は6～7月。偽球茎の基部から1花茎を出し、紅紫色の花をつける。萼片は斜上し、背萼片は長楕円形、長さ3.5mm、幅1.5mm、側萼片は広披針形、先端は2枚が接着して一体となり、前方に突出する。側花弁は卵形、背萼片よりも短い。唇弁は厚く、濃紫紅色で前方に湾曲する。樹幹や岩上に着生する。

【分布の概要】

伊豆諸島、本州（紀伊半島）、四国、九州；台湾

【伊豆諸島における生育環境】

常緑樹林の樹幹や岩上に群生する。

【伊豆諸島における生存に対する脅威や保全上の留意点】

園芸目的の採取のおそれがあるため、自生地の情報を秘匿することに加え、自生地の環境を現状のまま保全し、競合する植物を刈取りなどにより管理することが望ましい。

【関連文献】

前川文夫, 1971; 佐竹義輔ら（編）, 1982a.

「現存する株数」別の情報数

～ 10	～ 50	～ 100	～ 1000	～ 10000	不明
0	0	0	0	0	0

「以前からの増減」別の情報数

～ 1/100	～ 1/10	～ 1/2	～ 1	～	絶滅および未発見
0	0	0	0	0	0

判定基準

協議による



（執筆：奥田重俊）

キシマエビネ

Calanthe aristulifera var. *kirishimensis*

ラン科

伊豆諸島

EN

環境省

EN

【形態・生態】

多年草。偽球茎は丸い。葉は2～3個、狭長楕円形で先端がとがり、葉柄は長く、裏面に短毛がある。花茎は高さ20～40cm、1枚の鱗片葉がある。花期は4～5月。長さ8～12cmの花序に微紅色の花を10～15個つけ、やや下垂気味に咲く。苞は披針形。花被片は長さ1.5cm、平開しない。側花弁が萼片よりやや幅が狭い。唇弁は扇状で中央に3条の隆起線がある。距は細くて長い。

【分布の概要】

伊豆諸島、本州（近畿南部）、四国、九州、南西諸島

【伊豆諸島における生育環境】

常緑樹林内に生育する。

【伊豆諸島における生存に対する脅威や保全上の留意点】

園芸目的の採取のおそれがあるため、自生地の情報を秘匿することに加え、自生地の環境を現状のまま保全し、競合する植物を刈取りなどにより管理することが望ましい。

【関連文献】

前川文夫, 1971; 佐竹義輔ら（編）, 1982a.

「現存する株数」別の情報数

～ 10	～ 50	～ 100	～ 1000	～ 10000	不明
1	4	0	0	0	0

「以前からの増減」別の情報数

～ 1/100	～ 1/10	～ 1/2	～ 1	～	絶滅および未発見
0	0	0	3	1	0

判定基準

ACD



（執筆：奥田重俊）

エビネ

Calanthe discolor

ラン科

伊豆諸島

VU

環境省

NT

【形態・生態】

多年草。偽球茎は卵形で地表近くを数珠状に連なる。葉は2～3枚で根生し、長さ15～25cmの長楕円形、数本の縦ひだがあり、光沢が無い。花茎は高さ20～40cm。花期4～5月。花茎の上半部に10～15花をつける。花被片が紫褐色で唇弁が淡紅色のもの、花被片が淡緑色で唇弁が白色のものなど変化に富む。

【分布の概要】

伊豆諸島、北海道（西南部）、本州、四国、九州、南西諸島；朝鮮半島（南部）

【伊豆諸島における生育環境】

林床に生育する。

【伊豆諸島における生存に対する脅威や保全上の留意点】

園芸目的の採取のおそれがあるため、自生地の情報を秘匿することに加え、自生地の環境を現状のまま保全し、競合する植物を刈取りなどにより管理することが望ましい。

【関連文献】

前川文夫, 1971; 七島花の会 神津島, 2011a.

「現存する株数」別の情報数

～ 10	～ 50	～ 100	～ 1000	～ 10000	不明
0	8	2	2	0	14

「以前からの増減」別の情報数

～ 1/100	～ 1/10	～ 1/2	～ 1	～	絶滅および未発見
0	1	0	10	1	1

判定基準

ACD



(執筆: 奥田重俊・畔上能力)

オオキリシマエビネ, ニオイエビネ

Calanthe izuinsularis

ラン科

伊豆諸島

EN

環境省

EN

【形態・生態】

多年草。偽球茎は球状。葉は2～3枚つき、長楕円形で鋭頭、基部が急に細まり、表面は極めて光沢がある。花茎は高さ30～60cm、子房とともに開出する短毛がある。花期は4～5月。長さ8～12cmの花序にやや密に15～25個つく。花は径2.5cm。花被片は淡紫色。苞は膜質。萼片は狭卵形。側花弁は萼片と同形で、やや幅が狭い。唇弁は3深裂、中裂片は2裂し、中央に3条の隆起線がある。花に芳香がある。

【分布の概要】

伊豆諸島

【伊豆諸島における生育環境】

常緑樹林内に生育する。

【伊豆諸島における生存に対する脅威や保全上の留意点】

園芸目的の採取のおそれがあるため、自生地の情報を秘匿することに加え、自生地の環境を現状のまま保全し、競合する植物を刈取りなどにより管理することが望ましい。

【関連文献】

前川文夫, 1971; 高橋秀男, 1971.

「現存する株数」別の情報数

～ 10	～ 50	～ 100	～ 1000	～ 10000	不明
9	3	4	0	0	6

「以前からの増減」別の情報数

～ 1/100	～ 1/10	～ 1/2	～ 1	～	絶滅および未発見
0	0	0	6	0	0

判定基準

ACD



(執筆: 奥田重俊)

コウズエビネ ※備考 (p. 213)

Calanthe izuinsularis × *C. discolor*

ラン科

伊豆諸島

CR

環境省

【形態・生態】

多年草。ニオイエビネとエビネの交雑種とされる。葉は広く光沢がある。唇弁基部に黄色の斑紋があり、隆起線は1～3個。様々な個体変異があり、ニオイエビネとの区別は困難である。

【分布の概要】

伊豆諸島

【伊豆諸島における生育環境】

常緑樹林内に生育する。

【伊豆諸島における生存に対する脅威や保全上の留意点】

園芸目的の採取のおそれがあるため、自生地の情報を秘匿することに加え、自生地の環境を現状のまま保全し、競合する植物を刈取りなどにより管理することが望ましい。

【関連文献】

前川文夫, 1971; 七島花の会 神津島, 2011a.

「現存する株数」別の情報数

～ 10	～ 50	～ 100	～ 1000	～ 10000	不明
1	2	0	1	0	0

「以前からの増減」別の情報数

～ 1/100	～ 1/10	～ 1/2	～ 1	～	絶滅および未発見
1	0	0	0	0	0

判定基準

ACD



©七島花の会

(執筆者: 奥田重俊)

オナガエビネ

Calanthe masuca

ラン科

伊豆諸島

CR

環境省

VU

【形態・生態】

多年草。根茎は短く這う。葉は4～5枚が根生し、狭長楕円形、花期は6～10月。茎の上部に20～30個の花を付ける。花弁は紫紅色。斜めに開く。唇弁は長く、3裂、中裂片は扇状に広がり、赤色とさか状の突起がある。距は子房より長い。

【分布の概要】

伊豆諸島、九州、南西諸島; 台湾、中国(南部)からヒマラヤ

【伊豆諸島における生育環境】

常緑樹林内に生育する。

【伊豆諸島における生存に対する脅威や保全上の留意点】

園芸目的の採取のおそれがあるため、自生地の情報を秘匿することに加え、自生地の環境を現状のまま保全し、競合する植物を刈取りなどにより管理することが望ましい。

【関連文献】

前川文夫, 1971; 佐竹義輔ら(編), 1982a.

「現存する株数」別の情報数

～ 10	～ 50	～ 100	～ 1000	～ 10000	不明
0	0	0	0	0	0

「以前からの増減」別の情報数

～ 1/100	～ 1/10	～ 1/2	～ 1	～	絶滅および未発見
0	0	0	0	0	0

判定基準

D

No image

(執筆者: 奥田重俊)

ナツエビネ

Calanthe reflexa

ラン科

伊豆諸島

CR

環境省

VU

【形態・生態】

多年草。偽球茎は球状で地表近くを数珠状に連なる。葉は3～5枚が束生し、狭長楕円形で、表面は光沢がなく白みを帯びた緑色で、縦じわが多い。花茎は高さ20～40cm。花期は7～8月。淡紫色の10～20花を、花茎の上半分にまばらに総状につける。萼片は長さ15～20mm、背萼片は狭卵形、側萼片は斜卵形で、反曲する。側花弁は線形で鋭尖頭。唇弁は心状広卵形、3深裂し、中裂片はやや大型。

【分布の概要】

伊豆諸島、本州、四国、九州；朝鮮半島、台湾、中国（南部）

【伊豆諸島における生育環境】

やや湿った落葉樹林内に生育する。

【伊豆諸島における生存に対する脅威や保全上の留意点】

園芸目的の採取のおそれがあるため、自生地を秘匿することに加え、自生地の環境を現状のまま保全し、競合する植物を刈取りなどにより管理することが望ましい。

【関連文献】

前川文夫, 1971; 佐竹義輔ら（編）, 1982a.

「現存する株数」別の情報数

～ 10	～ 50	～ 100	～ 1000	～ 10000	不明
1	2	0	0	0	1

「以前からの増減」別の情報数

～ 1/100	～ 1/10	～ 1/2	～ 1	～	絶滅および未発見
1	1	2	1	0	1

判定基準

ACD



(執筆: 奥田重俊)

ギンラン

Cephalanthera erecta var. *erecta*

ラン科

伊豆諸島

CR

環境省

【形態・生態】

多年草。花茎は直立し、高さ10～30cm、葉は3～6枚互生し、長楕円形、長さ3～8cm、無毛で基部はわずかに茎を抱く。花期は5～6月。白色花を数個つける。唇弁は基部に短い距がつく。

【分布の概要】

伊豆諸島、北海道、本州、四国、九州；朝鮮半島

【伊豆諸島における生育環境】

樹林内に生育する。

【伊豆諸島における生存に対する脅威や保全上の留意点】

自生地の周辺も含めた広い範囲の樹林環境を保全し、林床管理に留意することが望ましい。

【関連文献】

前川文夫, 1971; 佐竹義輔ら（編）, 1982a.

「現存する株数」別の情報数

～ 10	～ 50	～ 100	～ 1000	～ 10000	不明
1	1	0	0	0	0

「以前からの増減」別の情報数

～ 1/100	～ 1/10	～ 1/2	～ 1	～	絶滅および未発見
0	0	0	0	0	0

判定基準

D



© 七島花の会

(執筆: 奥田重俊・畔上能力)

ユウシュンラン

Cephalanthera erecta var. *subaphylla*

ラン科

伊豆諸島

CR

環境省

VU

【形態・生態】

多年草。花茎は高さ 6 ～ 15cm。葉は退化し大部分が鞘状である。時に花序のすぐ下に 1 ～ 2 枚の葉をつける。花期は 4 ～ 6 月。茎頂に白色花を数個つける。唇弁基部には距があり、ギンランに似ている。

【分布の概要】

伊豆諸島、北海道、本州、四国、九州

【伊豆諸島における生育環境】

落葉樹林内に生育する。

【伊豆諸島における生存に対する脅威や保全上の留意点】

自生地の周辺も含めた広い範囲の樹林環境を広く保全し、林床管理に留意することが望ましい。

【関連文献】

前川文夫, 1971; 佐竹義輔ら (編), 1982a.

「現存する株数」別の情報数

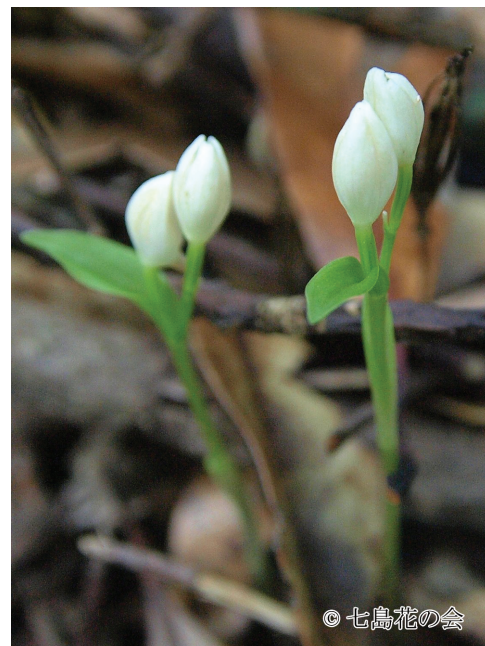
～ 10	～ 50	～ 100	～ 1000	～ 10000	不明
2	0	0	0	0	5

「以前からの増減」別の情報数

～ 1/100	～ 1/10	～ 1/2	～ 1	～	絶滅および未発見
0	0	0	0	0	0

判定基準

D



© 七島花の会

(執筆者: 奥田重俊・畔上能力)

キンラン

Cephalanthera falcata

ラン科

伊豆諸島

EN

環境省

VU

【形態・生態】

多年草。花茎は直立し、高さ 40 ～ 70cm。葉は 6 ～ 8 枚互生し、長楕円状披針形、長さ 8 ～ 15cm、幅 2 ～ 4.5cm、平滑、無毛で茎を抱く。花期は 4 ～ 6 月。花は黄色で 3 ～ 12 個、唇弁基部は筒状で短い距となる。

【分布の概要】

伊豆諸島、本州 (秋田以南)、四国、九州; 朝鮮半島、中国

【伊豆諸島における生育環境】

林床に生育する。

【伊豆諸島における生存に対する脅威や保全上の留意点】

自生地の周辺も含めた広い範囲の樹林環境を保全し、林床管理に留意することが望ましい。

【関連文献】

前川文夫, 1971; 佐竹義輔ら (編), 1982a.

「現存する株数」別の情報数

～ 10	～ 50	～ 100	～ 1000	～ 10000	不明
1	1	1	1	0	3

「以前からの増減」別の情報数

～ 1/100	～ 1/10	～ 1/2	～ 1	～	絶滅および未発見
0	0	2	1	0	0

判定基準

ACD



© 七島花の会

(執筆者: 奥田重俊・畔上能力)

ササバギンラン

Cephalanthera longibracteata

ラン科

伊豆諸島

CR

環境省

【形態・生態】

多年草。茎は直立し、高さ 30～50cm。葉は 5～8 枚が互生して狭長楕円形、長さ 7～15cm、無毛で茎を抱く。葉の裏面、葉の縁、花序などに微突起がある。苞葉は線形で下部の 1～2 枚は花序より長くなる。花期は 5～6 月。花は白色で平開しない。唇弁基部に距がある。

【分布の概要】

伊豆諸島、北海道、本州、四国、九州；朝鮮半島、中国（東北部）

【伊豆諸島における生育環境】

林床に生育する。

【伊豆諸島における生存に対する脅威や保全上の留意点】

自生地の周辺も含めた広い範囲の樹林環境を保全し、林床管理に留意することが望ましい。

【関連文献】

前川文夫, 1971; 佐竹義輔ら（編）, 1982a.

「現存する株数」別の情報数

～ 10	～ 50	～ 100	～ 1000	～ 10000	不明
2	0	0	0	0	0

「以前からの増減」別の情報数

～ 1/100	～ 1/10	～ 1/2	～ 1	～	絶滅および未発見
0	0	0	0	0	0

判定基準

D



© 寺尾博

(執筆: 奥田重俊・畔上能力)

サイハイラン

※備考 (p. 213)

Cremastra appendiculata

ラン科

伊豆諸島

CR

環境省

【形態・生態】

多年草。偽球茎は卵形で、1 枚の葉を付ける。葉は狭長楕円形、革質、長さ 15～35cm、3 本の主脈が目立つ。花茎は高さ 30～50cm で、直立し、基部は鞘状葉で包まれる。花期は 5～6 月。10～20 花を総状花序にやや密につける。花は淡い緑褐色から紅紫色と変異がある。萼片や側花弁は線状披針形、長さ 3～3.5cm。唇弁は上端付近で 3 裂する。さく果は先端にずい柱が残る。

【分布の概要】

伊豆諸島、北海道、本州、四国、九州；朝鮮半島（南部）、台湾、中国、ヒマラヤ、ロシア（サハリン南部）

【伊豆諸島における生育環境】

林床に生育する。

【伊豆諸島における生存に対する脅威や保全上の留意点】

園芸目的の採取のおそれがあるため、自生地の情報を秘匿することに加え、自生地の環境を現状のまま保全し、競合する植物を刈取りなどにより管理することが望ましい。

【関連文献】

前川文夫, 1971; 佐竹義輔ら（編）, 1982a.

「現存する株数」別の情報数

～ 10	～ 50	～ 100	～ 1000	～ 10000	不明
0	0	0	0	0	0

「以前からの増減」別の情報数

～ 1/100	～ 1/10	～ 1/2	～ 1	～	絶滅および未発見
0	0	0	0	0	0

判定基準

協議による



(執筆: 奥田重俊)

シュンラン

Cymbidium goeringii

ラン科

伊豆諸島

EN

環境省

【形態・生態】

多年草。常緑性である。根茎は節間が短縮する。葉は叢生し、線形で基部は鞘となり、縁には細鋸歯がある。花茎は高さ 10～25cm、肉質で数個の鞘状葉に包まれる。花期は 3～4 月。淡黄緑色花を 1 個、稀に 2 個頂生する。萼片はやや肉質、倒披針形。側花弁はやや短い。唇弁は白色に濃赤紫色の斑点があり、先は舌状で外曲し、小型の側裂片がある。さく果は大きく棍棒状である。

【分布の概要】

伊豆諸島、北海道（西南部）、本州、四国、九州；中国

【伊豆諸島における生育環境】

乾いた落葉樹林の林床に生育する。

【伊豆諸島における生存に対する脅威や保全上の留意点】

自生地を特定し、周辺も含め保全することが望ましい。

【関連文献】

前川文夫, 1971; 佐竹義輔ら (編), 1982a.

「現存する株数」別の情報数

～ 10	～ 50	～ 100	～ 1000	～ 10000	不明
1	1	0	1	0	0

「以前からの増減」別の情報数

～ 1/100	～ 1/10	～ 1/2	～ 1	～	絶滅および未発見
0	1	1	1	0	0

判定基準

ACD



© 七島花の会

(執筆者: 奥田重俊)

ナギラン

Cymbidium lancifolium

ラン科

伊豆諸島

EN

環境省

VU

【形態・生態】

多年草。根には細毛があり、紡錘形の細長い偽球茎に 2～3 枚の濃緑色の葉をつける。葉は狭長楕円形で先がとがり、長い柄と縁には細鋸歯がある。葉柄は直立して、葉は水平に開く。花期は 6～7 月。左右の側花弁は寄り添い、背萼片は立ち上がり、側萼片は斜め下に開く。緑を帯びた白色の花弁の内側に、紫斑が見られる。

【分布の概要】

伊豆諸島、本州（房総半島以西）、四国、九州、南西諸島；済州島、台湾、東南アジア、ヒマラヤ、ニューギニア

【伊豆諸島における生育環境】

海岸からあまり遠くない常緑広葉樹林内を好み、薄暗い林床で、他の植物に隠れるように生育する。

【伊豆諸島における生存に対する脅威や保全上の留意点】

自生地の環境を現状のまま保全することに加え、園芸目的や愛好家による採取に注意することが望ましい。また、新島、大島などでは、ニホンジカやキョンによる食害によって個体数が激減しているとの報告がある。

【関連文献】

神奈川県植物誌調査会 (編), 2001; 七島花の会 神津島, 2011a.

「現存する株数」別の情報数

～ 10	～ 50	～ 100	～ 1000	～ 10000	不明
10	4	1	3	0	4

「以前からの増減」別の情報数

～ 1/100	～ 1/10	～ 1/2	～ 1	～	絶滅および未発見
2	9	1	4	0	2

判定基準

ACD



© 七島花の会

(執筆者: 八木正徳)

マヤラン

Cymbidium nipponicum

ラン科

伊豆諸島

CR

環境省

VU

【形態・生態】

腐生植物である。根茎は長く地中を横に這って分枝し、白色で多肉質である。地上茎は先端から出て直立し、高さ 10 ～ 30cm、下部に膜質の鱗片葉が数枚ある。花期は 7 ～ 8 月。茎頂に 2 ～ 6 個の花をまばらにつける。花は白色で紅紫色を帯びる。萼片は倒披針形、長さ 2cm で鋭頭。側花弁は狭長楕円形、萼片より少し短い。唇弁は長楕円形で先がわずかに 3 裂する。中裂片は三角形で外反する。

【分布の概要】

伊豆諸島、本州（関東南部以西）、四国、九州、南西諸島

【伊豆諸島における生育環境】

常緑樹林内に生育する。

【伊豆諸島における生存に対する脅威や保全上の留意点】

自生地を特定し、周辺も含めた広い範囲の樹林環境を保全することが望ましい。

【関連文献】

前川文夫, 1971; 佐竹義輔ら（編）, 1982a.

「現存する株数」別の情報数

～ 10	～ 50	～ 100	～ 1000	～ 10000	不明
1	0	0	0	0	1

「以前からの増減」別の情報数

～ 1/100	～ 1/10	～ 1/2	～ 1	～	絶滅および未発見
0	0	0	1	0	0

判定基準

ACD



© 七島花の会

(執筆: 奥田重俊)

クマガイソウ

Cypripedium japonicum

ラン科

伊豆諸島

VU

環境省

VU

【形態・生態】

多年草。茎は有毛で高さ 20 ～ 40cm。葉は茎頂に 2 枚対生状につき、扇円形で径 10 ～ 20cm、放射状に多数の脈が走り、折りしわが顕著。花期は 4 ～ 5 月。茎頂に 1 個、径 10cm 前後と大形の花を横向きに開く。特に紅紫色の脈がある大きな袋状の唇弁が特徴的である。山野の樹林内に群生する。

【分布の概要】

伊豆諸島、北海道（西南部）、本州、四国、九州

【伊豆諸島における生育環境】

やや明るい常緑広葉樹・落葉広葉樹の混交林の林床に生育する。なお、三宅島の自生地は 2000 年の噴火の影響で消滅した可能性が高い。

【伊豆諸島における生存に対する脅威や保全上の留意点】

自生地の環境を現状のまま保全することに加え、園芸目的や愛好家による採取に注意することが望ましい。また、伊豆諸島における個体群は稀少であるため、種の保存も検討することが望まれる。

【関連文献】

佐竹義輔ら（編）, 1982a.

「現存する株数」別の情報数

～ 10	～ 50	～ 100	～ 1000	～ 10000	不明
0	0	0	0	0	3

「以前からの増減」別の情報数

～ 1/100	～ 1/10	～ 1/2	～ 1	～	絶滅および未発見
0	0	0	0	0	0

判定基準

D



© 七島花の会

(執筆: 八木正徳・畔上能力)

セッコク

Dendrobium moniliforme

ラン科

伊豆諸島

VU

環境省

【形態・生態】

多年草。根茎は短く、多数の根が束生する。花茎は高さ5～25cm、節間は円柱形。葉は互生し、披針形長さ4～7cm、革質で光沢がある。古い茎に葉は無い。花期は5～6月。花は前々年生の茎の上部の節に、1～2個つき、径3cm、白色から淡紅色と変異が多く、香気がある。側萼片は基部が距状に膨らむ。唇弁は卵状披針形。さく果は紡錘状である。樹上や岩上に着生する。

【分布の概要】

伊豆諸島、本州、四国、九州、南西諸島；朝鮮南部、台湾、中国

【伊豆諸島における生育環境】

樹上や岩上に着生する。

【伊豆諸島における生存に対する脅威や保全上の留意点】

園芸目的の採取のおそれがあるため、自生地の情報を秘匿することに加え、自生地の環境を現状のまま保全し、競合する植物を刈取りなどにより管理することが望ましい。

【関連文献】

前川文夫, 1971.

「現存する株数」別の情報数

～ 10	～ 50	～ 100	～ 1000	～ 10000	不明
1	0	1	5	1	0

「以前からの増減」別の情報数

～ 1/100	～ 1/10	～ 1/2	～ 1	～	絶滅および未発見
1	0	4	1	0	0

判定基準

E+ACD



(執筆者：奥田重俊・畔上能力)

キバナノセッコク

Dendrobium tosaense

ラン科

伊豆諸島

DD

環境省

EN

【形態・生態】

多年草。茎は叢生し、通常は下垂する。長さ15～40cm、時に80cmになる。節間は円柱形。葉は数枚互生し、披針形。花期は7～11月。上方の関節から出て、3～8個の総状花序になる。花は薄い黄緑白色。背萼片は広披針形、側萼片は斜三角形、長さ12～15mm。側花弁は長楕円状披針形で萼片より少し短い。唇弁は倒卵形、先端は反曲し、内面に暗紫色の斑紋がある。樹上や岩上に着生する。

【分布の概要】

伊豆諸島、四国、九州、南西諸島；台湾

【伊豆諸島における生育環境】

常緑樹林内の樹上や岩上に着生する。

【伊豆諸島における生存に対する脅威や保全上の留意点】

園芸目的の採取のおそれがあるため、自生地の情報を秘匿することに加え、自生地の環境を現状のまま保全し、競合する植物を刈取りなどにより管理することが望ましい。

【関連文献】

前川文夫, 1971; 佐竹義輔ら(編), 1982a.

「現存する株数」別の情報数

～ 10	～ 50	～ 100	～ 1000	～ 10000	不明
0	0	0	0	0	0

「以前からの増減」別の情報数

～ 1/100	～ 1/10	～ 1/2	～ 1	～	絶滅および未発見
0	0	0	0	0	0

判定基準

協議による



(執筆者：奥田重俊)

ハマカキラン

Epipactis papillosa var. *sayekiana*

ラン科

伊豆諸島

CR

環境省

VU

【形態・生態】

多年草。エソスズランの変種で海岸性である。根茎が短く、しばしば数本が集まって株立ちになる場合がある。地上茎は30～60cm。全株に褐色の短い縮毛がある。葉は5～7枚つき、卵形または卵状楕円形で先端はとがる。葉面、葉脈上に白色の毛状突起をつける。花期は7～8月。緑色の20～30個の花からなる総状花序をつける。萼片は狭長卵形で黄緑色。唇弁は卵状披針形、白色ないし黄緑色、赤紫色の斑紋がある。

【分布の概要】

伊豆諸島、本州（青森から愛知に至る太平洋側）

【伊豆諸島における生育環境】

海岸のクロマツ林内に生育する。

【伊豆諸島における生存に対する脅威や保全上の留意点】

園芸目的の採取のおそれがあるため、自生地情報を秘匿することに加え、自生地の環境を現状のまま保全し、競合する植物を刈取りなどにより管理することが望ましい。

【関連文献】

前川文夫, 1971; 高橋秀男, 1971.

「現存する株数」別の情報数

～ 10	～ 50	～ 100	～ 1000	～ 10000	不明
0	0	0	0	0	1

「以前からの増減」別の情報数

～ 1/100	～ 1/10	～ 1/2	～ 1	～	絶滅および未発見
0	0	0	0	0	0

判定基準

D



（執筆：奥田重俊）

カキラン

Epipactis thunbergii

ラン科

伊豆諸島

VU

環境省

【形態・生態】

多年草。根茎は横に這い、節から多くの根を出す。茎は高さ30～70cm、平滑、基部は紫色を帯び、少数の鞘状葉に包まれる。葉は5～10枚つき、狭卵形で著しい縦脈があり、基部は茎を抱く。花期は6～8月、黄褐色の10個あまりの花がつく。萼片は狭長卵形、長さ12～15mm。側花弁は卵形で萼片とほぼ同長。唇弁は内面に紅紫色斑があり、上下2唇にわかれ、上唇の基部に3隆条がある。

【分布の概要】

伊豆諸島、北海道、本州、四国、九州；朝鮮半島、中国（東北部）、ロシア（ウスリー）

【伊豆諸島における生育環境】

日当たりの良い湿地に生育する。

【伊豆諸島における生存に対する脅威や保全上の留意点】

園芸目的の採取のおそれがあるため、自生地情報を秘匿することに加え、自生地の環境を現状のまま保全し、競合する植物を刈取りなどにより管理することが望ましい。

【関連文献】

前川文夫, 1971; 七島花の会 神津島, 2011a.

「現存する株数」別の情報数

～ 10	～ 50	～ 100	～ 1000	～ 10000	不明
0	1	1	3	2	0

「以前からの増減」別の情報数

～ 1/100	～ 1/10	～ 1/2	～ 1	～	絶滅および未発見
0	0	0	2	0	0

判定基準

E+ACD



©七島花の会

（執筆：奥田重俊）